

# Campus News

静岡理科大学 広報誌 [キャンパスニュース]

2013

7

Vol.42

## 特集

- やらまいか創造工学センター完成
- 「鳥人間交流会2013春」開催報告
- 市民対象講座のリニューアル告知!!
- 「入試広報NEWS」がスタート



私たち、SISTアテンダントです!

本学で開催する高校生対象のイベントで、  
本学学生がSISTアテンダントとして活躍  
しています。6月22日(土)のSIST説明会でも  
受付や施設見学の案内などを行いました。

輝く未来へ  
はばたく力を



# ■ ■ やらまいか創造工学センター完成 ■ ■

本学のものづくり教育や地域企業との産学連携の拠点として新設した「やらまいか創造工学センター」が完成し、6月7日（金）に竣工式を行いました。今後は、内部設備の導入を順次行っていきます。

完成にあたり、やらまいか創造工学センター長の電気電子工学科の高橋久教授に、センターの概要などについて伺いました。また、建物の詳細について平面図でご紹介します。

## ものづくり教育と先端研究へ、そして産官学連携の拠点として活動開始

やらまいか創造工学センター センター長 電気電子工学科 教授 高橋 久

ものづくり教育を通して、豊かな創造性を持ち自ら考えて「ものづくり」ができる学生や技術者の育成、また地域社会や企業と連携した研究開発を推進することを目的とした「やらまいか創造工学センター」が完成し、活動を始めました。

### (1) 「やらまいか創造工学センター」の概要

ものづくり教育の充実や地域企業との共同研究を推進し、連携を図るための拠点となることを目指して設置されました。センターは耐火構造鉄骨造三階建て、延べ面積1,260平方メートルで、将来のスマートハウス化を考慮した設備を備えています。

1階は未来移動体重点研究フロアで、エンジンテストベンチ室、モータテストベンチ室、シャシダイナモ室、ロボット&移動体実験室、車両分解組立室等から構成されています。

2階はやらまいか教育フロアで、やらまいか実習室、成形試作室、解析室、作業室、展示スペース等から構成されています。

3階は新エネルギー研究・産学連携研究フロアで、新エネルギー実験室、産学連携研究室、BMIピークル実験室などから構成されています。

### (2) センターの目的と活動

本センターでは、「ものづくり」を通して、創造力とものづく

り力のある学生・技術者の育成を目指し、工学教育の強化を行います。また、地域産業との連携を図ると共に、今後必要となる研究分野に重点的に取り組みます。

教育では、「創造・発見」や「フレッシュマン・セミナー」などの授業を通して、自ら創造し、考え、「ものづくり」ができる学生を育成します。研究では、電気自動車や未来移動体、モータの特性解析、各種エンジンの性能試験、新エネルギーなどの研究・開発や実験を行い、産業界に有用な情報発信の拠点化を図っていきます。また産学連携研究室では、企業と大学が未来型移動体などの新しい技術に関する共同研究開発を行い、企業との連携を深めます。さらに、BMIピークル実験室では動物の生体機能をモニタリングする技術、脳波や筋電情報を利用した制御に関する基礎研究を実施し、次世代制御技術の開発を図ります。

### (3) 今後の活用について

本センターは、産業界が求める「ものづくり」ができる実践的な学生の育成や地域産業界との共同研究を通して新しい技術の開発など、未来に向けた先導的な教育研究開発の拠点として活用していきます。さらに、学生の課外活動の場としても活用していきます。

## 1階 平面図 ~未来移動体重点研究フロア~

### ロボット・移動体に関する研究、実験

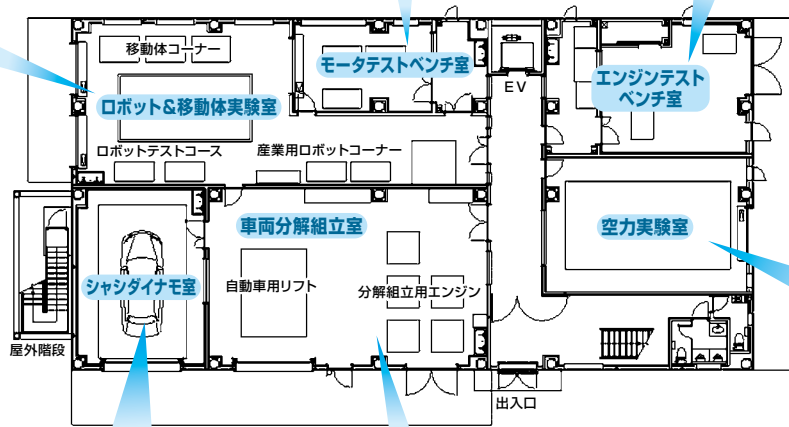
災害用や産業用などの各種ロボット、電気自動車や福祉車両などの未来型移動体に関する研究、実験を行います。ロボットテストコースで自作ロボットを動かします。

### モータに関する研究、実験

モータの特性評価や、モータを使った発電に関する研究、実験を行います。産学連携にも対応できるようにテストシステムを導入予定です。

### エンジンに関する研究、実験

ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンなどの特性評価や、動力性能の向上に関する研究、実験を行います。エンジン単体が回転する姿が間近で見られます。



### 走行状態の車両に関する研究、実験

室内で走行状態を実現させる装置を利用し、車両の振動や騒音などを測定する研究を行います。また、動力特性に関する教育にも使用します。容易に見ることができない実験装置です。

### エンジン分解組立・車両構造に関する教育

ガソリンエンジンの分解組立や、自動車用リフトを利用した車両構造解析などの教育や研究を行います。普通車以外のフォーミュラカーも見ることができます。

物体の周りに流れる気流に関する教育  
気流を可視化することができる「煙風洞実験装置」を利用し、物体の周りに流れる気流を観察する教育や研究を行います。気流を自分の目で見るができます。

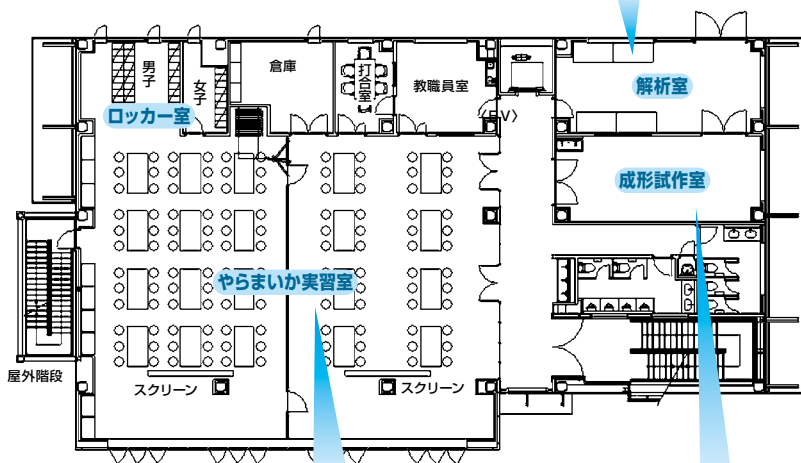
## 2階 平面図 ～やらまいか教育フロア～

### 2階ものづくり教育拡充のフロア

最大120名程度まで収容できる「やらまいか実習室」は、ものづくり教育に利用されます。また、パーテーションによる分割、視聴覚設備の設置などを備え、各種の講座にも対応できるような設計となっています。「解析室」、「成形試作室」とあわせ、各種のものづくりを行うフロアとして使用します。

### 3次元CAD/CAMによる解析や試作

3次元CADを利用したモデリングと解析、小型工作機械を利用した試作など、ものづくり教育に使用します。自分のイメージを形にできます。



### 「創造・発見」や工学系の実習

「創造・発見」は、10名程度の小グループで、数種のものづくりテーマの中から興味のあるテーマを選択して受講する授業です。ロボットの製作、電子工作など関心のあるテーマを選んでものづくりを楽しめます。他にもパソコンを使った実習や、電気・電子系の実習でも使用します。

### 各種ものづくりへの応用

削る（切削）、曲げる（塑性変形）、溶かす（溶融）、積重ねる（積層3Dprt）などものづくりの方法も様々です。「やらまいか実習室」、「解析室」の利用に合わせて、ものづくり教育が活発に行われるような設備の導入を検討しています。

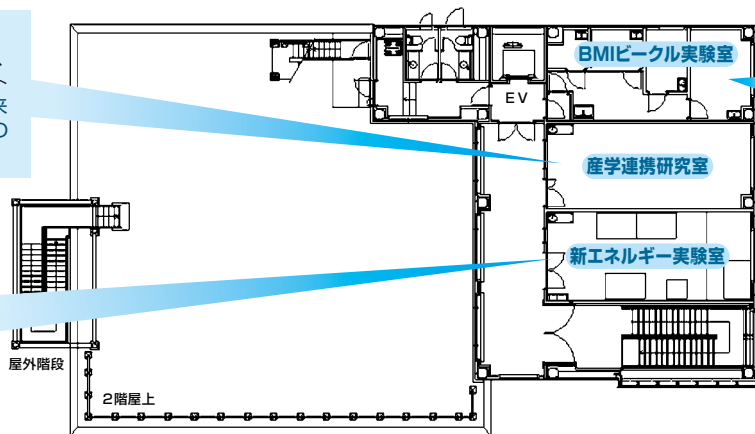
## 3階 平面図 ～新エネルギー研究・産学連携研究フロア～

### 近隣企業との連携研究の促進

電気自動車急速充電システムの研究、EVバイクの開発、自律自走ロボットの農業分野への応用研究など、未来型移動体に関する研究を近隣企業の方々と行います。

### 太陽電池など新エネルギーに関する研究

太陽電池の製作、評価を行う教育や、屋上に設置した実験用太陽電池の発電調査に関する実験を行います。また、疑似太陽光によるソーラーシミュレーション研究なども行います。



### 小動物による生体機能基礎研究

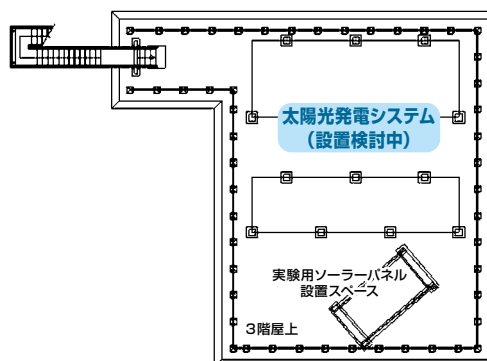
小動物の生体機能モニタリング技術開発や、福祉機械等へ脳波や筋電活動を応用するための基礎研究など、小動物を飼育しながら生体機能に関する研究を行います。

## 屋上階 平面図 ～太陽光発電のスペース～

### エコキャンパス、省エネルギーを考慮した建物

キャンパス内には太陽光追尾システムを利用した太陽光発電装置、風力発電装置など省エネルギーを考慮した実験設備が多数設置されています。また、新エネルギーに関する研究も盛んに行われています。

やらまいか創造工学センターも省エネルギーを考慮し、採光あふれる明るい建物となっています。また、電気自動車の普及も考慮し、充電ポストを建物脇と駐車場に設置します。今後、電力の節約や、災害時の発電に利用できるように、太陽光発電システムをキャンパス内でも最も陽当たりの良いこの建物に設置することを検討しています。



# 本学にて「鳥人間交流会2013春」を開催しました!



3月24日(日)に、本学で「鳥人間交流会2013春」を開催しました。今回は本学が会場となり、全国の大学から42団体、約310名の学生が参加しました。(鳥人間交流会とは、毎年2回、全国の大学の「鳥人間コンテスト」を目指す学生が集まり意見交換等の交流を行う会です。)

交流会を終えて、今回の交流会の企画運営を担当したサークル「鳥人間を目指す飛行機研究会」(チーム名: Sky Traveler) 副部長の岩崎貴さんと顧問の吉田昌史講師に感想を伺いました。また、当日参加した静岡大学ヒコーキ部の宮本代表からも感想を伺いました。

なお、本学は7月27日(土)、28日(日)に琵琶湖で開催される鳥人間コンテスト2013への出場が決定しています。

## 鳥人間交流会を振り返って

### 鳥人間を目指す飛行機研究会 副部長 岩崎 貴 (機械工学科4年)

#### ●交流会を終えて感じること

私は今までこのようなイベントの主催を行ったことがありませんでした。しかし、多くの人に助けていただき今回の交流会を成功させることができ、とても良い経験をさせていただきました。

#### ●交流会に向けて取り組んだこと、苦労したもの

苦労したことは、ほうれんそう(報告・連絡・相談)です。部員や顧問の吉田昌史先生だけでなく、他のチームや学務課など多くの人と連絡を取り、また、それをまとめることがとても難しいと思いました。

#### ●鳥人間コンテストの出場が決まって

昨年は書類審査で落選してしまいましたので、今年は大幅な機体のモデルチェンジを試みました。それは「意匠的意外性」、「製造技術の更なる可能性」、そして「チームの限界」に挑む(Challenge)ため、完全な無尾翼機への第一歩として「半無尾翼機」に挑戦することです。そのため現在製作を行っています。

また、私にとって学生生活で最後の鳥人間コンテストとなります。自分にとって満足のいく機体を製作したいと思います。

#### ●今後の目標

今年の機体名がSI-Challengerです。意味はS: 私たちのチーム名「Sky Traveler」、I: 第12回大会で見事優勝し、名機No1にも選ばれている無尾翼機の設計者「糸谷浩(Itoya Hiroshi)さん」そして名前全体として、「私たちチームとして新たな機体「半無尾翼機」への挑戦「Challenge」。そして、糸谷さんの記録「261mへの挑戦」という意味が込められています。

今年のコンテストで良い結果を残し、鳥人間コンテストの常連になりたいです。また、無尾翼機は操縦が難しいので今年はテストフライトを多く取り組みたいと思います。

#### ●最後にメッセージを

今回の交流会そして普段のサークル活動は学校関係者や外部の方など多くの方の御協力のおかげで成り立っています。これからも、その方々への感謝の気持ちを忘れず日々活動を続けていきます。今後とも応援よろしくお願いします。

### 鳥人間を目指す飛行機研究会 顧問 機械工学科 講師 吉田 昌史

鳥人間コンテストは空を飛ぶという人間の夢を実現させるための場である。1977年に第1回が開催されて以降、琵琶湖で毎年開催されており、今年で36回を迎える。多くのチームが空を飛ぶため、斬新なアイデアで機体の設計・製作を行い、コンテストでは飛行距離を競

う。本学の鳥人間を目指す飛行機研究会(以下、鳥人間クラブと略す)は平成17年に発足し、過去4回にわたり大会参加を果たした。平成25年大会も半無尾翼機で出場する予定である。

3月24日に鳥人間学生交流会が本学で実施された。交流会は毎年2回、全国の大学の鳥人間学生チームが集まり、お互いの人力飛行機の製作についての意見交換を行う。交流会の目的は機体製作のための技術力の向上を目指すためのものである。交流会は、全体でプレゼンを行う全体交流会、班ごとにわかれて専門的な内容を話し合う班別交流会、そして懇談会という構成になっている。なお、交流会の企画・運営は全て鳥人間クラブの学生らで行うことになっており、開催校は毎回の交流会のときに決められる。本学で実施された交流会の参加者数は約310名であった。本学のような規模の大学での開催は過去に前例がなかったが、本学鳥人間クラブの部員らの努力により、交流会は無事成功に終えることができた。



### 静岡大学ヒコーキ部 代表 宮本 知光さん

今回の交流会は同じ県内ということで、浜松キャンパスで活動している私たちとしては、電車で数十分で行けるのでとても気軽に参加させて頂きました。

静岡理科大学は自然に囲まれ、自分の大学よりも広いキャンパスで羨ましく思いました。校内にはヘリコプターや飛行機が飾ってあり、部員のみならず記念撮影をしたり楽しませていただきました。

交流会の講演ではヤマハ発動機株式会社の鈴木弘人さんをはじめとする非常に有益なお話を聞くことができました。また班別交流会では各大学の代表の部屋に行かせて頂きましたが、他大学の人とその役職しかわからないような話をする事ができ非常に参考になりました。今回の交流会を生かし、よりよいチームと人力飛行機を作って行きたいと思います。

# 市民対象の講座がリニューアルします!

本学では地域貢献活動の一環として、市民の方を対象とした講座を開催しております。

今年度、子供から大人まで、多くの方にご参加いただけるように、公開講座参加者アンケート等を参考に講座内容をリニューアルしました。どの講座も参加料は無料です。この機会に是非本学の講座へご参加ください。

## 公開講座

幅広い分野について外部講師や本学教員が講演を行います。(本年度は、5月、6月に開催しました。)



## オープンカレッジ SIST 体験講座 **新規**

中高生から大人まで体験できる「市民参加型」講座です。理科実験や実技、ものづくり体験などを行います。(秋に開催予定)

## 英語講座

OpenClass  
English Communication Strategies

**新規**

本学教員から英語の効果的な学習方法を学びます。ゲームをしたり、音楽やドラマを通じて、気軽な雰囲気の中で英語を楽しみます。(本年度は、5月、6月に開催しました。)

## 公開シンポジウム

時流にあったテーマを設定して、外部講師による基調講演と本学教員がコーディネーターを務めるパネルディスカッションを実施します。(1月25日(土)に開催予定)

## 市民体験入学

参加者は本学の一日学生となり、外部講師による特別講義と本学教員による選択講義(講義、実習、実技)を行います。本年度は8月25日(日)に開催します。※参加申込み窓口は袋井市教育委員会となります。(TEL0538-44-3197)

## お理工塾 夏のわくわく体験工房 **新規**

本学学生が主体で、子供向けに様々なテーマの実験、実技講座を行います。様々な実験、体験を通して、チャレンジすることの大切さやモノづくりの楽しさ、理科への興味関心などを高めることを目的に行います。(8月18日(日)に開催)

## シストコロキウム

**新規**

飲み物を片手に、地域の方々と本学教員がアットホームな雰囲気の中でサイエンスや昨今の技術動向など、様々なテーマについて自由闊達に対話・議論をします。(11月、2月に開催予定)

## お理工塾 おもしろ理科教室 **新規**

理科好きの子供を増やすことを目的に夏に静岡・富士・富士宮で子供向けの理科実験講座を開催します。冬には沼津地区の開催を予定しています。(静岡8月7日(水)、富士・富士宮8月21日(水)開催)

### 開催講座は事前申込制となります

本学ホームページの「イベントお申込み」<https://www.sist.ac.jp/form/event/>からお申込み可能です。

### メール配信サービスを開始しました

本学の講座開催情報をいち早くお届けします。ぜひご登録下さい。<https://www.sist.ac.jp/form/mail/>

## 遠州灘

日本の茶道、武道、芸術等の奥義に「守破離」がある。この奥義は理工学の道にも通ずると恩師から教わった。理工学系の学校を卒業後しばらくは先輩の教えに従い修行し「守」、先輩の教えを守り修行を重ねる中でその教えから発展的に離れていく、あるいは出張先・学会などで先輩から離れ武者修行を行う中で自分独自のものを得る「破」、先輩の教えを越える境地を開く「離」、という話であった。ただし「努力なしに守破離なし」とも注意され、自分に可能な限りの努力・修行があって初めて「離」が生じ、「破」に到達すると聞いた。

本学が標榜する「やらまいか教育」と「守破離」の奥義には親和性があると思われる。5月に竣工した「やらまいか創造工学センター」で学生に「守破離」の奥義を身につけさせ、卒業生が日本の科学技術を創造的に発展させることに期待したい。(N)

## 公開シンポジウム

1月26日(土)に、「農を楽しむ」をテーマに平成24年度公開シンポジウムを開催しました。当日は、185名もの参加者があり、テーマへの関心の高さがうかがえました。

千葉大学大学院園芸学研究科緑地環境学コース環境健康学領域准教授の岩崎寛氏による基調講演の後、「未来を育む農業」をテーマにパネルディスカッションを行い、実際に農業や園芸を行っている参加者などから多くの質問が寄せられ、受講者はパネリストの言葉に熱心に耳を傾けていました。



## SIST 企業セミナー

2月25日(月)・27日(水)の2日間、本学の体育館においてSIST企業セミナーを開催しました。2日間で昨年を上回る155の企業・団体が参加し、延べ485名の学生が人事担当者との面談に臨みました。

参加企業・団体へのアンケートからは、例年以上に就職活動に積極的な学生が多いとの印象をいただき、就職戦線は依然厳しいながらも、学生はいいスタートを切ることができました。



## 記念植樹

3月15日(金)に、卒業生代表が大学近くの愛野公園の道を挟んだ東側へ「コブシ」を記念植樹しました。この植樹は、4年間お世話になった袋井市民へのお礼として卒業生から募った募金で一期生から毎年行われ、今回で19本目の植樹になりました。



## 卒業式

3月16日(土)に、平成24年度卒業証書・学位授与式を挙行し、理工学部、総合情報学部合わせて297名と大学院生14名が卒業しました。

卒業生を代表して理工学部機械工学科の杉田知久さんが「どんな状況でも努力を怠らず、自分を成長させていきたい」と力強く誓いました。



## 入学式

4月3日(水)に、平成25年度入学式を挙行し、学部生、大学院生合わせて381名が入学しました。新入生を代表して、理工学部電気電子工学科の竹内達哉さんが「勉学に励み、様々なことに自発的に、そして真摯に取り組み、学生生活が実りあるものとなるよう努力し続けます」と宣誓しました。



## 公開講座

5月18日(土)、6月1日(土)、6月22日(土)の3回に渡り「平成25年度公開講座」を開催しました。

第1回は、「地元の偉人を知る」をテーマに本学人間情報デザイン学科の小栗勝也准教授と静岡大学の小和田哲男名誉教授が、第2回は、「インターネット、そのリスクと可能性」をテーマに静岡産業技術専門学校の水野信也教諭と本学コンピュータシステム学科の大石和臣准教授が、第3回は、「iPS細胞」の不思議に迫る」をテーマに本学物質生命科学科の常吉俊宏教授と浜松医科大学再生・感染病理学講座の河崎秀陽助教が講演を行いました。



## 英語講座

5月23日(木)、6月5日(水)、6月13日(木)、6月26日(水)の4回に渡り、本学で英語講座を開催しました。英語講座のシリーズ講座としては初めての試みとなりましたが、中学生から社会人の方まで幅広い年代の方にご参加いただき、笑いの絶えない楽しい講座となりました。



## 総合防災訓練

5月24日(金)に、本学にて教職員と学生による「総合防災訓練」を行いました。訓練には学生、教職員ら約930名が参加し、避難訓練や三角巾実技訓練、煙体験訓練を実施しました。また、グラウンドにて消火活動も体験しました。今回は、例年をはるかに超える学生の参加があり、本学学生の防災意識の高さがうかがえた訓練となりました。



## SIST バスケットボール大会

6月15日(土)に、本学アリーナにて平成25年度SISTバスケットボール大会(クラブ連合委員会主催)が開催されました。今大会は、企画・運営・実施の全てを学生が行い、参加者も約80名にのびりました。普段はスポーツをやらないような学生も奮戦していました。バスケットボールを通して参加者同士の交流を深めて大いに盛り上がった大会となりました。





### 地域の身近な存在として

ウェブネット代表  
鈴木 貴士さん

私達の地域にも大学ができてから、身近に大学が感じられるようになり、大学の公開講座にも、気軽に参加できるようになりました。講座の内容は、わかりやすく、楽しめるものが多く、中でも、富田先生による法多山へのウォーキングの講座は、とても印象に残りました。

また、大学祭に行った時の企業の出展ブースでは、今まで詳しく知ることのなかった地元の企業の方の話に触れることができ、大学のあるこの地域が、優れた人材と企業を生み出していることを再認識しました。

在学生の皆さんには、この豊かな環境の中で、技術的、人間的に学んでいただき、社会に出た時には、思う存分、その能力を発揮してもらいたいと思います。私も、理工科大の関連校の静岡産業技術専門学校を卒業し、袋井市で起業して10年が経ちましたが、地域の発展のための産学官の連携等に微力ながら協力していきたいと思っています。



### 地域企業との産学連携に期待

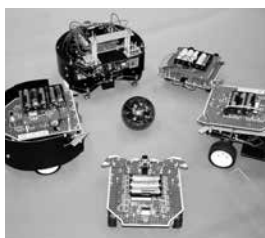
浅羽町商工会 事務局長  
竹原 敏浩さん

静岡理工科大学と私との最初の接点は、商工会が事務委託を受けている浅羽企業交流会が平成11年に実施した大学視察研修会でしたが、最近では、袋井市産学官連携推進協議会やものづくりフェスタの委員として、年数回ですが関わりを持たせていただいております。

ものづくりフェスタでは、学生の皆様が大切にされている大学祭との同時開催を快くご了承いただき、学生皆様のエネルギッシュな学祭活動により賑わいのあるものづくりフェスタとなりました。大変ありがたく思っています。

本年度は、浅羽企業交流会による大学との研修事業を計画しますが、このような商工団体との交流や産学官連携推進協議会活動により、地域の企業と大学との産学連携による事業や研究が数多く実を結ぶことを期待したいと思います。

## 授業科目の紹介



機械工学科では、学生が実践的な技術者としての素養を身につけるために、「機械工学創造演習」というユニークな授業があります。この授業では、いくつかのチームに分かれて、サッカーロボットや電気自動車の設計製作を行います。しかしながら、ただ漫然と設計製作を行うのではなく、ある厳しい制約条件が与えられます。その

## 機械工学 創造演習

の制約条件とは、コスト、モーターやバッテリー容量など様々で、学生にはその制約条件の中で設計製作を行い、最善の物を作ることが要求されます。さらに、自分達の製作品の特徴について、素人でもわかるようなプレゼンテーションが求められます。これは実際の技術者が、経営者や顧客に対して行うプレゼンテーションと同じレベルで行われます。

さて、授業の最後には、お楽しみのロボットによるサッカー試合や電気自動車レースです。この時ばかりは、学生達皆、今までの苦勞を忘れ、自分達のチームのマシンの最終調整や応援など、見物の教員も一緒に大変盛り上がりします。

担当教員：機械工学科教員 益田 正教授、土屋 高志准教授、野崎 孝志講師、鹿内 佳人講師



## サークル紹介

### 漫画研究会

部長 山崎 雅人 (コンピュータシステム学科2年)

漫画研究会は、現在42人が所属しているサークルです。活動内容は創作活動で、絵を描く、プラモデルを製作するなど、分野は多岐にわたります。昨年度から部員数が格段に増え、クラブハウス2階の漫画研究会の活動室と、その隣の活動室Cを使用してもなお人数が収まり切らないくらいです。数ヶ月に一回部誌を作成し、部員が描いた絵や、作ったプラモデルの写真などを掲載し、学生ホールに掲示しています。大学祭では毎年展示を行っており、塗り絵コーナーは毎年、とても多くの方に楽しんで頂いています。

絵の上手い下手はありますが、皆楽しく活動しているサークルです。



## 物質生命科学科 山崎研究室

# おじゃまします。

ナノテクノロジーと聞くと何を想像するでしょうか？ナノメートルとは、10億分の1メートルの大きさで、人間の目で見ることができませんが、科学の現象を通して見るすることができます。研究では、ゼオライトと呼ばれる物質を扱っています。ゼオライトは、ナノレベルの穴を持ち、この大きさは分子とほぼ同じ大きさで、吸着現象や触媒作用、さらにはイオン交換などの性質を示します。最近の研究から、福島第一原発事故で拡散した放射性物質を回収するのに適した材料の調製に成功しました。また、全く新しい触媒調製にも成功しており、触媒活性を調べるだけでなく、農業分野などへの応用も視野に入れて、日々研究室の学生たちと努力しています。



研究室訪問

第30回

## 研究室学生からひとこと

村松 雪乃 (大学院材料科学専攻1年)

近年、大気中の温室効果ガス(特に二酸化炭素)が増加し、地球温暖化が問題となっています。卒業研究では、ゼオライトに新しい触媒機能を持たせることに成功しました。大学院では、二酸化炭素を減らす反応などを研究しています。

研究室では、研究は元より、研究について議論したり、ガラス器具などの実験器具を製作したりしています。また、時にはお誕生日会を開くこともあります。研究のみならずイベントも開催する、忙しくも充実した研究室です。

## 山崎 誠志先生のプロフィール

福岡県出身。博士(工学)。豊橋技術科学大学で学部から大学院博士課程まで過ごし、その後、本学助手、講師を経て現職に至っています。大学院から現在までゼオライトの研究を続けています。ゼオライトは、ポテンシャルの高い材料で、これからも新しい性質や応用技術を研究したいと思っています。

# 入試広報 NEWS

今号から「入試広報NEWS」がスタートしました。

入試関連のイベントのご案内や入試情報などについてお知らせしていきます。



4月27日(土)・5月26日(日)・6月22日(土)の3日間、SIST説明会(高校生・保護者対象の学校説明会)を開催しました。オープンキャンパスの前に、学部・学科の選択や静岡理工科大学の魅力を知るために、多くの高校生と保護者が本学を訪れました。各学科の説明を聞いた後、施設・設備を見学した生徒・保護者からは、「静岡理工科大学を知ることが出来た」「説明が分かりやすかった」「学生や先生方の対応が親切で丁寧であった」との声が多く聞かれました。

当日は、現役の学生もスタッフとして来場者に対応しました。大学生の姿を見て高校生も、将来の自分の姿を描くことが出来たのではないのでしょうか。

高校生からは、「先輩方はとても素晴らしい研究を行っていてとても感動した」「先輩方に負けなよう勉強をして社会貢献を果たしたい」と、学生生活に対して期待に胸を膨らませるような声や、「先輩たちが優しく接してくれた」「先生方と親しく会話できてよかった」と、在学生や先生方の対応に感動したとの声が聞かれました。

今後は7月21日(日)・8月3日(土)・8月4日(日)・8月24日(土)の4日間でオープンキャンパスを開催します。たくさんの方にご参加いただき、本学をより深く理解し、本学の良さを感じ取っていただけるよう取り組んでいきます。



## 2014年度 入試日程

入試種別	出願期間	試験日	合否通知日
一般推薦	平成25年10月14日(月)～11月5日(火)	11月16日(土)	11月22日(金)
一般前期(A) [3教科型]	平成26年1月6日(月)～1月28日(火)	2月4日(火)	2月15日(土)
一般前期(B) [2教科型]		2月5日(水)	
前期センター試験利用入試(A) [3教科型]	平成26年1月6日(月)～1月31日(金)	2月6日(木)	
前期センター試験利用入試(B) [2教科型:総合情報学部のみ]		《試験日自由選択》	
一般後期 [2教科型]	平成26年2月17日(月)～3月6日(木)	3月13日(木)	3月20日(木)
後期センター試験利用入試(A) [3教科型]	平成26年2月17日(月)～3月10日(月)	本学独自の個別試験なし	3月20日(木)
後期センター試験利用入試(B) [2教科型:総合情報学部のみ]		本学独自の個別試験なし	

## 平成25年度 学年暦(学部・大学院)

前期定期試験	7月29日(月)～8月2日(金)	冬期休業	12月30日(月)～1月5日(日)
夏期休業	8月3日(土)～9月19日(木)	後期定期試験	1月21日(火)～1月27日(月)
前期追・再試験対象者発表	8月21日(水)	後期追・再試験対象者発表	2月7日(金)
前期追・再試験期間	8月26日(月)～8月30日(金)	後期追・再試験期間	2月17日(月)～2月21日(金)
後期ガイダンス	9月20日(金)	春期休業	1月28日(火)～3月31日(月)
後期授業開始	9月23日(月)	卒業式・修了式	3月15日(土)
大学祭	10月26日(土)・27日(日)		

## 活躍する卒業生



浜松ホトニクス株式会社  
溝口 真規さん

(大学院理工学研究科システム工学専攻第5期修了生)

わかり、また一方では教科書に載っていることが実感として理解できるようになりました。自分で手を動かすということはとても重要であると実感しました。

今、私は新しいセンサーの開発を行っています。何かを作るとき、どうしても作り手の目線で作ってしまいがちです。しかし、それでは使ってもらいやすいものを作ることはできません。使い手の目線でよりよいものを作るために勉強し、挑戦し続けていきたいと思います。

私の勤務する会社は多種多様な光センサーを作っています。その中で、私は新しいセンサーの設計・開発を行っています。新しいセンサーは世界一早いなど、高水準の性能を求められるのでとても一筋縄ではいきません。地道な改良を積み重ねてようやく到達できるものです。しかし、開発にスピードがなければ他社に先を行かれたり時機を失ってしまいます。目標に向かって一歩ずつ進むこと、期限までに終わらせるプランニングの能力は重要です。学生時代、規模の大きなプログラムを書きましたがこのときの経験に通じるものがあります。

また、学生時代に物を作ることを経験したことはものづくりの現場では非常に役に立ちました。今思えば非常に単純な回路ですが、実物を作ってみることは教科書には載っていないことがあることが

## 人事異動

●平成25年4月1日付採用



理工学部  
機械工学科  
教授  
桜木 俊一

専門分野 熱・流体工学、プラズマ工学、エネルギー変換工  
略歴 九州大学大学院総合理工学研究科エネルギー変換工学専攻修士課程修了。株式会社小松製作所を経て本学教授に就任。

趣味 散歩、美術品鑑賞



理工学部  
機械工学科  
教授  
後藤 昭弘

専門分野 電気加工、精密加工、表面処理

略歴 東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻修士課程修了。三菱電機株式会社を経て本学教授に就任。

趣味 クラシック音楽、水泳、写真、娘とのチェス、経済学の研究



総合情報学部  
コンピュータシステム学科  
講師  
松田 健

専門分野 数理情報科学

略歴 東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻博士課程修了。サイバー大学IT総合学部専任講師を経て本学講師に就任。

趣味 ギター演奏、格闘技



総合情報学部  
人間情報デザイン学科  
講師  
松永 理恵

専門分野 実験心理学、認知科学

略歴 北海道大学大学院文学研究科人間システム科学専攻・博士後期課程単位取得満期退学。北海道大学大学院文学研究科学術研究員を経て本学講師に就任。

趣味 猫、散歩



教育開発センター  
特命准教授  
古橋 巨

専門分野 数学教育

略歴 東北大学理学部卒、東京都立大学理学研究科修士課程修了。静岡県立池新田高等学校長を経て本学特命准教授に就任。

趣味 有形文化財(特に仏像、建造物)探訪

### お疲れ様でした

(平成25年3月31日付退職)

機械工学科教授 佐野 勝志  
機械工学科教授 丹羽 昌平  
機械工学科教授 前川 昭二  
コンピュータシステム学科教授 田中源次郎  
教育開発センター 特命准教授 林 昭光

## 役職者紹介

●平成25年7月1日現在

### 大学評議員

学長	荒木 信幸	電気電子工学科長	小澤 哲夫(教授)
理工学部長	出口 潔(教授)	物質生命科学科長	住谷 實(教授)
総合情報学部長	菅沼 義昇(教授)	コンピュータシステム学科長	玉真 昭男(教授)
学生部長	宮岡 徹(教授)	人間情報デザイン学科長	大楯 弘順(教授)
附属図書館長	秋山 憲治(教授)	理工学研究科運営委員長	小川 敏夫(教授)
機械工学科長	益田 正(教授)		

YES長兼 やらまいか創造工学センター長	高橋 久(教授)
工作センター長	土屋 高志(准教授)
先端機器分析センター長	吉田 豊(教授)
情報センター長	工藤 司(教授)
教育開発センター長	郡 武治(教授)
国際交流センター長	十朱 寧(教授)

※YES：やらまいかエディケーションサイト

## スポットライト がんばれ!理工科大生



**大谷 真輝**  
(コンピュータシステム学科4年)

私は、1年生の頃から大学祭実行委員会に参加し、3年生の時に委員長を務めました。小学生の頃から学級委員や、生徒会長のような大勢の人をまとめる役が好きで、自分から進んでやってきました。今回の大学祭実行委員長も周りの方から推されたこともあります。過去の2年間での先輩たちの後をしっかり継いで、次の大学祭も成功させたいと思い、立候補しました。

大学祭実行委員長というものは高校までのように先生が手ほどきしてくれるわけではなく、どんなことも自分で提案し、実行しなければなりません。何か問題が起きた時、解決するのも自分です。何をすることも責任というものをよく考えて行動しなければならないということをととても感じました。また、様々な企業の方とお話する場がたくさんあり、社会人としてのルールを学ぶ良い機会でもありました。

このような団体のリーダーを体験できるのは、学生の間だけだと思いますし、何かの責任を負うということは簡単なことではないということを知ることができました。たくさんの方に協力していただいたこと、迷惑をかけてしまった経験を無駄にすることのないように、ここでの貴重な時間で学んだことをしっかりと今後に生かしていきたいです。

## 平成25年度優秀表彰式

5月22日(水)に1年間の学業成績が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理工科大学優秀賞」の表彰式を行いました。受賞者30名に学長より表彰状と副賞が授与されました。



### 機械工学科

2年生 池谷 隆言  
佐藤 樹  
3年生 仙島 和成  
宮野公美子  
4年生 三浦 貴士  
村田 晃弘

### 電気電子工学科

2年生 村松 直樹  
山内 智仁  
3年生 佐々木佑樹  
杉本 真大  
4年生 伊藤 侑暉  
内山 陽一

### 物質生命科学科

2年生 市川 亮太  
村松 和哉  
3年生 秋山 智美  
市川 健太  
4年生 河原崎有紀子  
北川紗央合

### コンピュータシステム学科

2年生 市川 翔大  
台 翔太  
ハー アンタイ  
3年生 青島 篤史  
村上 沙織  
4年生 伊藤 通将  
嘉村 祐哉

### 人間情報デザイン学科

2年生 鈴木 里実  
3年生 一瀬 公佑  
恩田 里菜  
4年生 鈴木 結貴  
鷲山美由起

## 同窓会 だより

### ホームカミングデーの開催

本年も、本学にてホームカミングデーを開催します。第13回目を迎える今回も、ゲーム大会や豪華商品が当たる大抽選会を企画しています。同窓会員の皆様のご参加をお待ちしています。

- ◆日 時：平成25年10月27日(日)  
11:00~12:30 <大学祭2日目>
- ◆会 場：本学食堂(体育厚生棟1階)
- ◆参加料：無料

### 同窓会ホームページについて

平成24年に、同窓会ホームページを開設し、多くの方にご覧頂いております。今後も同窓会の窓口として情報を発信すると共に、同窓生間の交流の手段としても活用を検討していきますので、今後の進化にも是非ご期待下さい。(同窓会HPアドレス <http://www.sist.ac.jp/dousoukai/>)



## 後援会 だより

### 父母懇談会の開催

父母懇談会では、午前全体会と学科別懇談会、午後個別面談(希望者のみ)を開催します。なお、詳細なご案内は9月にお送りする成績表に同封させていただきます。

- ◆日 時：平成25年10月26日(土) <大学祭1日目>
- ◆会 場：本学300講義室(学生ホール3階)

## 編集後記

「やらまいか創造工学センター」が完成しました。本学における教育・研究の両面がより一層発展するものと期待できます。また、全国の鳥人間サークルの交流会が本学で開催されました。他大学の学生同士が交流し、切磋琢磨するのは素晴らしいことです。学業も課外活動も共に充実している様子が伺えました。(K)

### 静岡理工科大学キャンパスニュース

平成25年7月15日発行  
企画・編集・発行/静岡理工科大学 大学広報委員会  
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2  
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110  
<http://www.sist.ac.jp> E-mail:c-news@ob.sist.ac.jp

